

静脈瘤の症状

美容と機能の2つの側面があります

では、下肢静脈瘤かじょうみやくくりゅうの具体的な症状について話をしましょう。

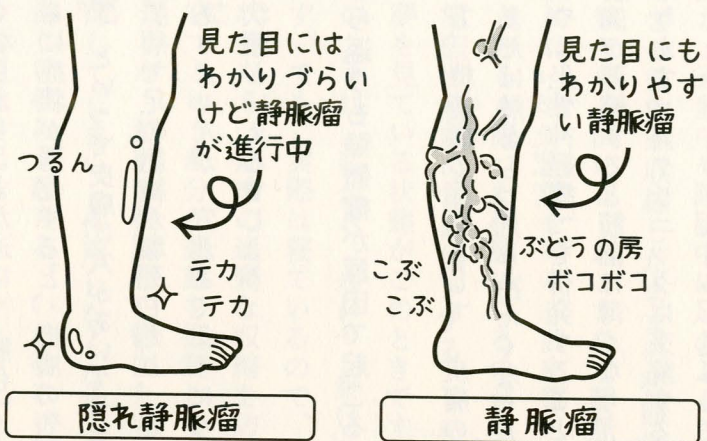
ひと口に静脈瘤じゆうみゅうといっても、その症状は実にさまざま。人によって、パターンは大きく変わってきます。

症状自体は、美容面と機能面の2つの側面があります。

美容面というのは、足の皮膚に大きな変化が出てくるもので、一番わかりやすい例は字のごとく、瘤こぶが足の表面にボコボコと現れるものです。最初は皮膚になにかできものができたのかと思ってしまうのですが、血管が皮膚に浮き出て瘤のように盛り上がってしまうのです（左図右参照）。

ただ、こうした見た目の変化がなくても、内部が静脈瘤じゆうみゅうになっている「隠れ静脈

静脈瘤の症状



瘤」の場合もあります（上図左参照）。

カラダが元気なときはあまり気がつくこともなく、静脈瘤の症状もさほど進行することがないのですが、病気になるって寝込んだり、ケガをして動けなくなったりと、カラダが不調になるととたんに症状が悪化していきます。

たとえば、ひざが痛くなってあまり歩かなくなると、静脈瘤が目立つようになってきます。

静脈瘤になると、湿疹しっしんが出たり、表皮の新陳代謝がわるくなるので皮膚が痒かゆくなったりすることがあります。それをつい掻かいてしまうことで肌の色が黒ずんでくる「色素沈着しきそせんちやく」という症状が出